

型枠工事業における「職業能力の体系」の整備等に関する調査研究

分野：職業能力開発の実践に必要な調査研究
担当室名：調査開発室

1. はじめに

基盤整備センターでは、企業や個人が、人材育成や能力開発を推進するためには、あらためて「自社の仕事や作業の内容を洗い出し、体系的かつ段階的に整理することからはじめる」ことが有用であるとの視点から、「職業能力の体系（以下、「体系」という。）を整備しており、現在、業集別では93業種（農業・林業5業種、建設業15業種、製造業32業種、サービス業41業種）、汎用では1分野6部門となっている。

平成27年度は、業種別としては、製造業では3業種の新規開発を、建設業では整備されてから10年以上が経過した工事業のうち型枠工事業について見直しを行った。また、建設業の汎用データ（経営部門、事務部門、施工管理部門、作業管理）について新規開発を行った。

2. 型枠工事業の「体系」の整備

型枠工事業は、総務省統計局の日本標準産業分類によると、建設業の職別工事業に分類される。型枠工事業所では国土交通省の大工工事業建築許可を取得し、併せて、とび・土工・コンクリートを取得する機会が多い。

「体系」活用の目的の一つが中小企業の支援であることから、より具体性を持たせるために、従業員規模20名程度の型枠専門事業所を対象とすることとした。

既存の大工工事業の「体系」（平成16年度整備）のうち型枠工事業について見直しを行った。

3. 建設業汎用データの整備

「体系」の整備を計画的に行うようになった平成19年度以降、経営部門、事務部門、営業部門、管理部門については、製造業とサービス業のように業界が異なると相違はあるが、同一業界では個々の業種ごとに大差の無いことが明らかとなった。

このような経緯から、製造業やサービス業といった業界ごとに、同4部門を共通データとして整理していくことが効果・効率的であるとの結論に至り、平成25年度には、製造業とサービス業の同4部門をそれぞれ汎用データとして新規作成を行った。

建設業の経営部門、事務部門、営業部門、施工管理部門についても共通性のあることから、本年

度、建設業汎用データの新規開発を行うこととなった。

主に、建設業の業種別の既存データ（15業種）を整理統合し、複数の異なる工種の事業所にヒアリング調査を行い、型枠工事業の作業部会で整合性を図りながら、汎用性のある建設業の「体系」を新規に開発した。

4. 「業務の流れ」について

標準的な型枠工事業の事業所において、業務の中心となる施工部門の施工工程や、他の部門との相関関係を把握するために「業務の流れ」を作成した。（図1参照）

「業務の流れ」では、施工部門は施工工程に沿って整理し、その他の部門は汎用データの「業務の流れ」を引用した。

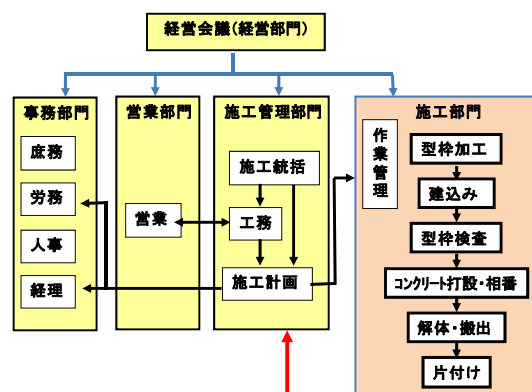


図1 型枠工事業の「業務の流れ」

部門	職務
経営	経営・企画
事務	庶務
	労務
	人事
	経理
営業	企画・広報
	営業
施工管理	施工統括
	工務
	施工計画
施工	作業管理
	型枠加工
	建込み
	型枠検査
	コンクリート打設相番
	解体・搬出
片付け	

図2 型枠工事業の「職務構成表」

5. 「職務構成表」について、

「職務構成表」は企業でいう組織図に概ね対応しており、「部門」は部や課を、「職務」は係を想定している。

左表に型枠工事業の「職務構成表」を示す。

前述のとおり、型枠工事業では、左表の「経営部門」から「施工管理部門」までと、施工部門の「作業管理」については、新規開発した汎用データを引用し、検証した。

6. 「職務分析表」について

図3の上段に型枠工事業の「職務分析表」の一部を、下段に「体系の構成と考え方」を示す。「職務分析表」はこのようにツリー構造となっている。

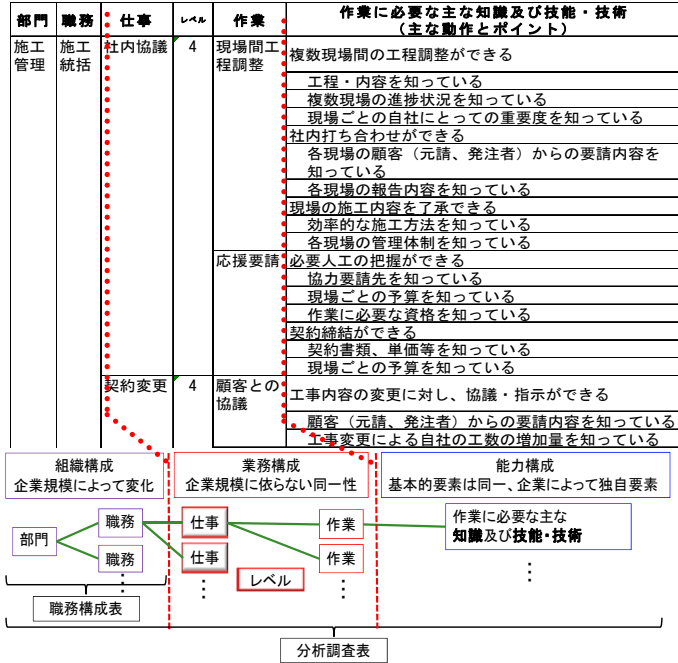


図3 型枠工事業の「職務分析表」(抜粋)と体系の構成と考え方

「組織構成」は「部門(部署)」と「職務(係)」からなる企業の組織概要である。

「職務構成」は「仕事」と「作業」からなる。一人で効率的かつ安全にできる一連の動作を「作業」とし、その一定のまとまりを「仕事」としている。「仕事」にはレベルが割り振られており、レベル1は指示に従って作業ができる、レベル2は自立して作業ができる、レベル3は他者に指示ができる、レベル4は経営者と、概ね4段階に区分されている。

「能力構成」は、その「作業」における重要な動作を「～ができる」とし、その動作のポイントを「～を知っている」として、関係付けをしている。

型枠工事業の職務分析にあたっては、平成16年度に整備した「体系」をもとに、文献調査・作業部会での検討結果、企業ヒアリング結果などを整理統合して、現状に即した体系となるよう見直しを行った。

「施工部門」については、型枠加工から片付けまでを、施工工程に沿って整理した。大きな職務の変化はないが、電動工具の普及や、図面のCAD化など、新しい機器やパソコンの操作といった「仕事」が追加された。「仕事」の区分とレベルについては、職長の「仕事」をレベル3、型枠大

工の「仕事」を経験や難易度によってレベル1または2とした。職務「作業管理」は、汎用データではレベル3の職長の「仕事」として整理しているが、作業部会で加除修正のないことが確認されたため、そのまま引用した。

「施工管理部門」については、作成した汎用データを、型枠工事業の作業部会で検討し、不要な項目を削除し、型枠工事業の現状に即したものとした。この部門は、概ね部門長や次長などの管理職が担当する職務と考えて整理しているが、経営者が兼務する場合も多いのでレベル4で整理した。

「経営部門」はレベル4の経営者の「仕事」であり、「事務部門」と「営業部門」はレベル1～3の「仕事」である。三部門とも汎用データを引用し、必要に応じて加除修正を加えた。

7. 汎用データの有用性

今年度は、建設業汎用データの新規開発を行い、型枠工事業の見直しと並行してその整合性を図ることができた。

既整備の建設業の体系には、整備から10年を経過しているものが多く、見直しが必要であるが、汎用データが整備されたことで、効率よく見直しを進めることができる。

また、事業所において独自の体系にアレンジする際にも、施工部門に注目して、効率よく行うことができると考えられる。

8. まとめ

本調査研究は、一般社団法人日本型枠工事業協会の協力を得て、型枠工事業の標準的な「仕事」や「作業」の明確化を行うことにより、企業等が行う人材育成や能力開発等を効果的・効率的に進めるための基礎資料を整備することを目的として実施した。

「職業能力の体系」のうち、「職務分析表」は企業等の人材育成方針決定に有効であるばかりでなく、労働者自身の自己理解や目標設定、ジョブカードの評価項目、国の実施する各種教育訓練などにも活用されている。

今後は、作成した「職業能力の体系」が企業等においてより活用できる内容とするためには、活用事例などをはじめとする情報収集が優先課題である。体系の構成や考え方ははじめとする内容の充実を図りつつ、普及・広報に努め、継続して大局的に整備して行く必要がある。

参考文献

- [1] 大久保、岩波 他. "シリーズ建築施工図解型枠工事【第2版】". 東洋書店 (2014.3).
- [2] 型わく施工必携. 労働省商業訓練局技能検定課監修. 社団法人日本建設大工工事業協会(1982.5).